

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 夜光グループの3つの分光器によるスペクトルのネガ・アルバムを収蔵**

堂平観測所は、1962年の建設当時は空も暗く、微光天体の観測も出来、夜光観測グループが発光雲分光器、彗星分光器などで観測を行っていた。2009年3月末にこれらの観測に当たっていた宮下暁彦氏が定年退職されるため、これらの分光器で得られたスペクトルのネガがアーカイブ室に託された。託されたものは、

- 1) 発光分光器ネガ 1966年3月～ ベネット彗星
 - 2) 彗星分光器根が(1) 1973年12月～1974年1月 コホーテク彗星
 - 3) II分光器 ハレー彗星
- の3冊(写真1)である。



写真1 託された3冊のネガ・アルバム

アルバムの背表紙には分光器名が書かれている(写真2)。



写真2 アルバムの背表紙

次に、まず発光分光器で得られたスペクトルの例を写真3に示す。



写真3 発光分光器のスペクトルのサンプル 1



写真4 発光分光器のスペクトルのサンプル 2

写真5、写真6は彗星分光器で得られたスペクトルの例である。

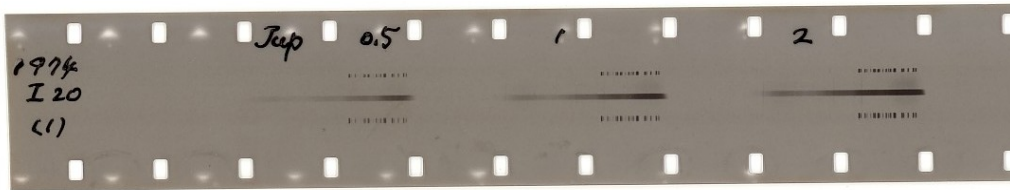


写真5 彗星分光器で得られたスペクトルのサンプル 1



写真6 彗星分光器で得られたスペクトルのサンプル 2

写真7 II 分光器で得られたスペクトルの例である。



写真7 II 分光器で得られたハレー彗星のスペクトル

写真8、写真9にその拡大したものを示す。



写真8 II分光器によるハレー彗星のスペクトルのサンプル 1



写真9 II分光器によるハレー彗星のスペクトルのサンプル 2

なお、これらの分光器で得られた彗星のスペクトルを用いて出版された論文のスペクトルの例を図1に示す。

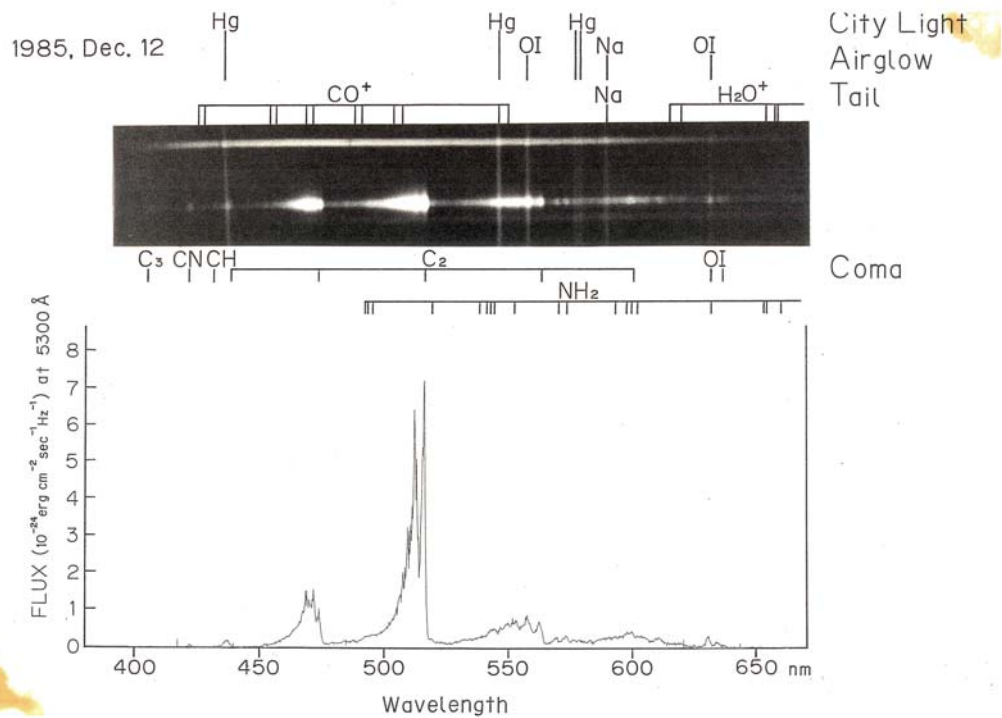


図1 彗星のスペクトルの研究例